

NEWS RELEASE

2022.9.15

ウクライナの子どもたちを支援するチャリティオークション

「Spring is around the corner」展

2022年11月2日(水) から開催



ポーラ ミュージアム アネックス(東京・中央区銀座)では、今年で3回目となるチャリティオークションを「Spring is around the corner」展と題して、2022年11月2日(水) から12月4日(日)まで開催します。

昨年のチャリティオークションでは、沢山の温かいご支援とご協力をいただき、初回を大きく上回る合計 22,121,730 円を日本赤十字社への「新型コロナウイルス感染症への対応等に関する寄附金」として、全額寄付することができました。

2022年9月現在、ウクライナへの軍事侵攻は、残念ながら未だ出口の見えない状況が続いています。「戦禍に苦しむ方々に手を差し伸べたい。とりわけ子どもたちへの支援をしたい」との声がアーティストからも数多く寄せられ、今年はウクライナの子どもたちへの支援を目的に実施する運びとなりました。

「春」をテーマに、本企画に賛同いただいた当ギャラリーに縁のある20名のアーティストが各々1点、作品を制作します。作品は展示会場でご覧いただけるとともに、サイレントオークション形式にてオンラインで入札いただけます(11月7日(月)入札サイトオープン予定)。またドローイング作品の抽選販売に加え、今回はご要望の多かったカタログも販売します。

各作家が表現する多彩な「春」を通して、春を想うワクワクした気持ちや、未来に向かう明るい兆しを感じ取っていただけるような展覧会になることを願っています。

なお、オークション、ドローイング及びカタログの販売収益は、ウクライナの子どもたちへ支援を行っている公益財団法人 日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」へ全額寄付する予定です。

*サイレントオークションとは、競りは行わず入札形式のみのオークションで、入札された中で最高額をつけた方が落札者となる形式です。

|| 出展作家 ||

イイノナホ、岩田俊彦、開発好明、柏原由佳、菊池敏正、館鼻則孝、田中圭介、津上みゆき、中村弘峰、中村萌、流麻二果、野口哲哉、ヒグチユウコ、福井利佐、増田セバスチャン、水野里奈、ミヤケマイ、横溝美由紀、Ryu Itadani、渡辺おさむ(五十音順)

|| 展覧会概要 ||

展覧会名：チャリティオークション「Spring is around the corner」展

会 期：2022年11月2日(水) - 12月4日(日) [33日間] ※会期中無休

開館時間：11:00~19:00(入場は18:30まで) / 入場無料

会 場：ポーラ ミュージアム アネックス (〒104-0061 中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル3階)

アクセス：東京メトロ 銀座一丁目駅 7番出口すぐ / 東京メトロ 銀座駅 A9番出口から徒歩6分

主 催：株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

U R L：<https://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

オークション入札サイト公開予定：2022年11月7日(月)

※状況により変更になる場合がございます。ギャラリーHPで最新の情報をご確認の上、ご来館いただきますようお願い申し上げます。

作品左から：野口哲哉「Someone's Portrait -the snow dots」2022年 紙、アクリル絵具 / 中村弘峰「Discovery -White Mountain-」2021年 陶土、顔料、プラチナ、竹 / 流麻二果「雪はなぜ白い/Why is Snow White?」2022年 キャンバスに油彩 / ヒグチユウコ「旅」2021年 アンティークトランク(20世紀初頭フランス製)、ペン / 中村萌「quiet quest」2021年 楠 鉄、油絵具

【リリースに関するお問い合わせ】 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
info-annex@po-holdings.co.jp TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

【読者からのお問い合わせ先】 ポーラ ミュージアム アネックス TEL 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

|| プロフィール (五十音順) ||

※ここで紹介する作品は全て参考作品です。本展では各作家の新作を展示予定です。

イイノナホ

Naho lino

1967年 北海道洞爺湖温泉町生まれ、東京四谷育ち。

武蔵野美術大学彫刻学科卒業後、シアトルのビルチャックガラススクールで学ぶ。

時間をテーマにした独創的なオブジェを中心にランプやシャンデリアなど灯を使った造形作品を手がけるアーティスト。国内外の住宅や店舗、美術館向けのシャンデリアなども手がける。作品は全て自身による手吹きで制作され、ガラスの繊細さと手作業による温かみを備える。公式サイト：<https://www.naho-glass.com/>



「祈りと時の素描光背」
2021年 鑄造ガラス、吹きガラス

岩田俊彦

Toshihiko Iwata

1970年 神奈川県生まれ。1999年 東京芸術大学美術学部工芸科漆芸専攻卒業。

漆芸の伝統的な技巧を用いつつ、現代の感性に溶け込む作品を既成概念にとらわれない表現で制作。幾何学的な線や模様、動植物や家紋などのモチーフを描いたフラットパネルシリーズ、漆という素材と対話をしながら完成へと導かれるダイアログシリーズなどの作品を手掛けている。主な展覧会に「MICA2022」(2022年 ギャラリーエクリュの森)、「U HOPE」(2021年 コートヤードHIROO)、「Authentic Aesthetic」(2020年 伊勢半本店紅ミュージアム)、「THIS IS NOW」(2020年 ANA インターコンチネンタルホテル東京) などがある。公式サイト：<https://iwatatoshihiko.com/>



Dialogue series 「untitled」
2021年 漆、土系材料、木製パネル

開発好明

Yoshiaki Kaihatsu

1966年 山梨県生まれ、山梨県在住。多摩美術大学大学院美術研究科修了。

日常にあるものやコミュニケーションを題材とした作品を多く発表し続けている。

主な展覧会に「Dia del Mar/By the Sea」(2002年 PS1 MOMA ニューヨーク・アメリカ)、ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館「おたく：人格＝空間＝都市」(2004年)、「開発好明：中2病展」(2016年 市原湖畔美術館)、「あそびのじかん」(2019年 東京都現代美術館)、「開発再考 Vol.2, 3」(2022年 ANOMALY) 等。「越後妻有大地の芸術祭」ではモグラTVが人気を博している。東日本大震災後、被災地におけるプロジェクトをライフワークとして継続中。公式サイト：<https://www.yoshiakikaihatsu.com/>



「TRIP」
2021年 蛍光灯(電源内蔵タイプ) コード

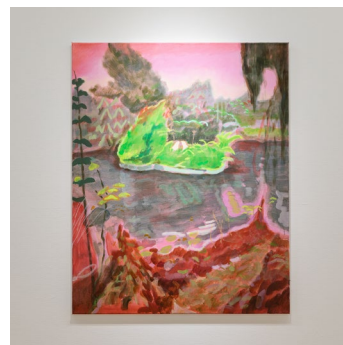
柏原由佳

Yuka Kashihara

1980年 広島県生まれ。武蔵野美術大学で日本画を学んだ後、渡独。

2013年ライプツィヒ視覚芸術アカデミー修士課程卒業、2015年同アカデミーマイスターシューラー号取得。現在ドイツのベルリンを拠点に活動している。日本画のように薄く溶いた油絵の具と、テンペラ絵具、アクリル絵具を用いた深い色彩により、透明性と濃密さが共存した生命力溢れる作品世界をつくりあげている。2012年にVOCA展に出展、佳作賞と大原美術館賞を受賞。主な個展に「最初の島 再後の山」(2016年 大原美術館)、「Polar Green」(2019年 小山登美夫ギャラリー)、「1:1」(2021年 ポーラ ミュージアム アネックス)「Yuka Kashihara」(2022年 アクアベラギャラリー、パームビーチ)など。

公式サイト：<http://tomiokoyamagallery.com/artists/yuka-kashihara/>



「あしかのひ」
2021年 アクリル、キャンバス

菊池敏正

Toshimasa Kikuchi

1979年 愛媛県生まれ。東京藝術大学大学院で、文化財保存学を修める。
2005年にサロンドプランタン賞（東京芸術大学）を受賞。2017年、ヴィクトリア&アルバート博物館客員研究員として、ロンドンに滞在し研究、制作を進めた。日本の古典技法を用いて、純粋な幾何学を形態として制作している。主な展覧会に「Carte blanche à Toshimasa KIKUCHI」（2021年フランス国立ギメ東洋美術館）、「Lustrous Surfaces」（2018年 ヴィクトリア&アルバート博物館 ロンドン・イギリス）、「Negative space -Trajectories of Sculpture-」（2019年 ZKM カールスルーエ・ドイツ）など。
公式サイト：<https://toshimasakikuchi.com/>



「空間充填-003」
2021年 松、漆、顔料

館鼻則孝

Noritaka Tatehana

1985年 東京都生まれ。東京藝術大学で染織を専攻。
レディー・ガガの履くヒールレスシューズの作者として知られる。過去の日本文化を見直し、現代的に再定義することで制作される作品は、独自の視点と世界観を持つ。近年は絵画も制作し、伝統工芸士との創作活動にも精力的に取り組む。メトロポリタン美術館（ニューヨーク・アメリカ）や、ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン・イギリス）に作品が永久収蔵されている。公式サイト：<https://www.noritakatatehana.com>



「Baby Heel-less Shoes」2021年
牛革、豚革、染料、クリスタルガラス、金属ファスナー

田中圭介

Keisuke Tanaka

1976年 千葉県生まれ。広島市在住。2004年東京藝術大学美術学部修士課程彫刻科修了。作品素材に一貫して製材を用い、森を中心としたミニチュア的な風景を彫り起こし、アクリル絵具で着色した作品を制作している。主な展覧会に「青山」（2008年 山本現代）、「傾景」（2012年 山本現代）、「Parallel Far East World」（2013年 A4 Contemporary Arts Center、成都・中国）、「見晴らす展」（2014年 ポーラ ミュージアム アネックス）、「CURRENTS」（2014年 THE JAMES CHRISTIE ROOM 香港）、「瀬戸内国際芸術祭 2019」、「瀬戸内国際芸術祭 2022」など。
公式サイト：<https://anomalytokyo.com/artist/keisuke-tanaka/>

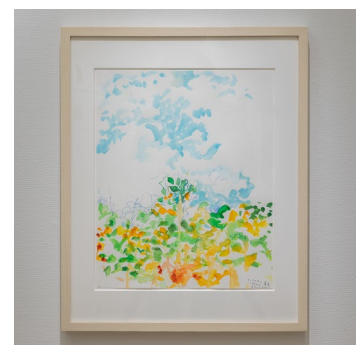


「名も無い樹木の長い旅
～ 34° 26'17.6"N 132° 24'57.9"E ～」
2021年 木、アクリル絵具、ポラロイド写真

津上みゆき

Miyuki Tsugami

1973年 東京都生まれ、大阪府育ち。京都芸術大学大学院修了。
1996年よりタイトルに“View”を関して作品を発表。主題が眺めや風景だけでなく、見方や観点という広義を意識した制作に取り組んでいる事に由来する。2003年 VOCA 賞受賞。主な個展に、「ARKO 津上みゆき」（2005年 大原美術館）、「View—まなざしの軌跡、生まれくる風景」（2013年 一宮市三岸節子記念美術館）、「日本の風景、ウッカーマルクの風景」（2015年 ドミニカナークロスター・プレントラウ、ドイツ）、「時をみる」（2018年 上野の森美術館ギャラリー）、「View—人の風景」（2019年 長崎県美術館）。
公式サイト：<https://miyukitsugami.jp/>



「Fragrant olives, 8 Oct 2021, 11:53am, FYT」
2021年 水彩、色鉛筆、鉛筆、紙

中村弘峰

Hiromine Nakamura

1986年 福岡県生まれ。

100年以上続く人形師の家系の四代目として生まれ、東京藝術大学大学院を修了後、家業を引き継ぎながら新たな作品を発表している。従来の概念に囚われずに制作される作品は、緻密かつ斬新で、見るものの目を奪う。2017年金沢・世界工芸トリエンナーレ コンペティション部門優秀賞受賞、パブリックコレクションに太宰府天満宮宝物殿など。

公式サイト：<https://www.hiromine-nakamura.jp/>



「Discovery -White Mountain-」
2021年 陶土、顔料、プラチナ、竹

中村萌

Moe Nakamura

1988年東京生まれ。2012年に女子美術大学大学院美術研究科を修了。

楠に油絵具で彩色した作品を特徴としており、木という素材の中から、自身が求める形を探り当てるように彫り出していく。また、絵画と彫刻を横断的に取り組みながら、最近では、楠の板を使った平面作品へも精力的に取り組んでいる。国内外で継続して多くの作品を発表し、活躍の幅を広げている。近年の主な個展に「our whereabouts - 私たちの行方 -」(2021年 ポーラ ミュージアム アネックス)、「inside us」(2021年 ギャラリー椿)、「GROWTH」(2020年 華山1914 文創産業園区)など。現在、神奈川県で10人のアーティストが入居するアトリエで制作を行う。公式サイト：<https://www.moe-nakamura.com/>



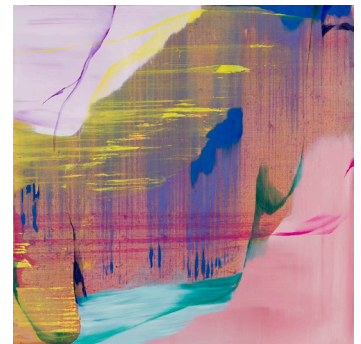
「quiet quest」
2021年 楠 鉄、油絵具

流麻二果

Manika Nagare

1975年 大阪府生まれ、香川県育ち。

女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒。鮮やかでありながら淡い色彩を持ち、透明感と陰影が重なり合う特有の質感を生み出す絵画作品を発表。パブリックアート、ファッションブランドとのコラボレーションや、ダンスパフォーマンスの美術・衣装、建築空間の色彩監修など幅広く活動。近年の主な展覧会に「その光に色を見る Spectrum of Vivid Moments」(2022年ポーラ ミュージアム アネックス)、「Re Construction 再構築」(練馬区立美術館、東京、2020年)、「In Between」(Miyako Yoshinaga Gallery、ニューヨーク、2020年)。公式サイト：<https://manikanagare.com/>



「雪はなぜ白い／Why is Snow White?」
2022年 キャンバスに油彩

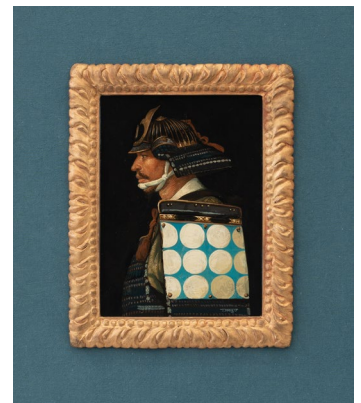
野口哲哉

Tetsuya Noguchi

1980年 香川県生まれ。2005年に広島市立大学大学院を修了。

鎧と人間をテーマに、時代や文化が交雑する世界観を構築する美術家。精巧に制作された人びとの姿は、ユーモアを感じさせながらも詩情を湛える。主な展覧会に、巡回展「THIS IS NOT A SAMURAI」(2021-2022年)、「野口哲哉展—野口哲哉の武者分類図鑑—」(2014年 練馬区立美術館、アサヒビール大山崎山荘美術館)、「医学と芸術：生命(いのち)と愛の未来を探る」(2009年 森美術館)等がある。

公式サイト：<https://gyokuei.tokyo/photo/album/414837>



「Someone's Portrait -the snow dots」 2022年
紙、アクリル絵具

ヒグチユウコ

Yuko Higuchi

画家、絵本作家

公式サイト：<https://higuchiyuko.com/>



「旅」

2021年 アンティークトランク
(20世紀初頭フランス製)、ペン

福井利佐

Risa Fukui

1975年 静岡県出身。多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。

精緻な観察による描写のきめ細やかさと大胆な構図で、観る者を圧倒させるような生命力のある線の世界を描き出す。中島美嘉のCDジャケットアートワーク、Reebokとのコラボレーションスニーカーやユニクロ「UT」への参加、直木賞作家の桐野夏生氏、木内昇氏の小説への挿画や装丁、NHK 太宰治短編小説集「グッド・バイ」の映像制作、NHK「猫のしっぽカエルの手」オープニングタイトル制作などがある。お能の宝生流家元主催の「和の会」メインビジュアル担当(2008-2018)。福音館書店かがくのとも から絵本 2019年7月号「むしたちのおとのせかい」、2022年11月号「からまつ 一ふじさんにもりをつくるきー」を刊行。その他、国内外の個展や合同展の参加、ワークショップなど多方面で活躍中。

公式サイト：<https://www.risafukui.jp/>



「旅」

2021年 紙、アクリル絵の具

増田セバスチャン

Sebastian Masuda

1970年生まれ。ニューヨーク在住。90年代より演劇、現代美術の世界で活動始める。

1995年より東京・原宿に拠点をもち、一貫した独特な色彩感覚からアート、ファッション、エンターテインメントに渡り作品を制作。きゃりーぱみゅぱみゅ「PONPONPON」MV美術、KAWAII MONSTER CAFE プロデュースなど世界にKawaii文化が知られるきっかけを作った。世の中に存在する全ての事象をマテリアルとして創造しつづける。2017年度文化庁文化交流使、2018年度NYU Arts & Science 客員研究員、2019年Newsweek Japan 世界が尊敬する日本人100人 公式サイト：<https://sebastianmasuda.com/>



「Pointrythm World-Message of Green #2-」

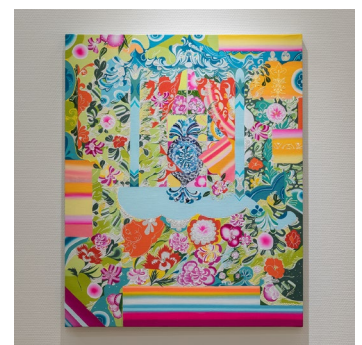
2019年 ミクストメディア

水野里奈

Rina Mizuno

1989年 愛知県生まれ。

作者本人でさえ驚くような作品であれば観覧者からはもっと大きな驚き以上の何かが生まれるのではないかと期待し、「見ても見きる事の出来ない」絵画を目指している。主な個展に「みてもみきれない。」(2020年 ミヅマアートギャラリー)、「思わず、たち止まざるをえない。」(2019年 ポーラミュージアムアネックス)、「ARKO2017 水野里奈」(2017年 大原美術館)など。主なグループ展に「現代美術のポジション 2021-2022」(2021-2022年 名古屋美術館)、「片山正道の百科全書」(2017年 東京オペラシティアートギャラリー)など。主な受賞に、愛知県芸術文化選奨・新人賞(2022)、VOCA 奨励賞(2015)など。パブリックコレクションに大原美術館、愛知県美術館、パブリックアートに三菱地所、第一生命保険株式会社などがある。公式サイト：<https://www.rinamizuno.com/>



「プラナカン建築のタイル」

2021年 キャンバスに油彩

©MIZUNO Rina Courtesy Mizuma Art Gallery

ミヤケマイ

Mai Miyake

2008年にパリ国立高等美術大学大学院に留学。

日本古来より現代に続く独自の感性を織り込んだ作品を制作。作品は絵画のみならず、インスタレーション、半立体、プロダクト、小説まで表現領域は多岐にわたる。主な展覧会に「変容する家」(2018年金沢21世紀美術館)、「アート&デザインの大茶会マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ」(2018年大分県立美術館)、「さいたま国際芸術祭」(2020年)「ミヤケマイ展 夢の跡」(2021年柿傳ギャラリー)、「とある美術館の夏休み」(2022年千葉市美術館)、など。最新の作品集は「反射 yin-yang」(2022年)。京都芸術大学教授。

公式サイト <http://www.maimiyake.com/>



「そろそろ旅に Be In Touch」
2021年 和紙、洋紙、絹、鉄刀木

横溝美由紀

Miyuki Yokomizo

1968年東京都生まれ。多摩美術大学彫刻科卒業。

時間・空間と光にこだわったインスタレーション作品を得意とする彫刻家。近年はインスタレーション作品を平面に置き換え、再構築し直したキャンバス作品も発表している。主な展覧会に「プラスチックの時代」(2000年、埼玉県立近代美術館)、「盗まれた自然」(2003年、DIC 川村記念美術館)、「未来への回路-日本の新世代アーティスト」(2004-19年、世界巡回展/国際交流基金)、「untitled 2020」(2020年、MARUEIDO JAPAN) など。

公式サイト：<https://miyukiyokomizo.net/>



「crossing S015.035.2021」
2021年 油絵具、キャンバス

Ryu Itadani

1974年大阪府生まれ。

慶應義塾大学を卒業後、2003年にセントラル・セント・マーチンズのグラフィックデザイン科を卒業。住み慣れた街の風景、部屋にある文房具や絵具など、何気ない日常の一場面に心地よさや優しさを見出し、色彩豊かに描く。

現在ベルリン在住。

公式サイト：<https://ryuitadani.com/>



「Landmarks」
2021年 Acrylic on Canvas

渡辺おさむ

Osamu Watanabe

1980年生まれ。

工芸菓子の技法をアートに取り入れ、樹脂を用いて様々なものにお菓子のデコレーションをする現代美術作家。本物そっくりのカラフルで精巧なクリームやキャンディ、フルーツなどを用いた作品は、国内外で注目を集め話題を呼ぶ。主な展覧会に「渡辺おさむ OHARA-DECO」(2012年大原美術館)。パブリックコレクションに、大原美術館、清須市はるひ美術館、高崎市美術館など。

公式サイト：<https://watanabeosamu.tokyo/>



「そして砂漠はデザートに姿を変える」
2021年 樹脂、モデリングペースト、アクリル絵具、真鍮